

# 山岳救助にドローン



実験で離陸準備中のドローン

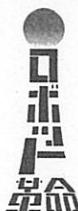
## 冬山でも有効性確認

山岳救助では一般的にヘリコプターが使われることが多いが、地上搜索も不可欠になる。地上からは危険な場所や広大な山岳地を短時間でくまなく搜索することが必要である。東京都山岳連盟と日本山岳救助機構の両団体はドローンの活用

東京都山岳連盟（東京都千代田区、亀山健太郎会長、03・3526・2550）は日本山岳救助機構（同中央区）と共に、飛行ロボット（ドローン）による新しい山岳遭難者捜索技術を開発した。夏山、冬山計5回のテストで有効性を確認した。テスト結果などをから作成する「報告書」や「ドローン捜索マニュアル」を活用し、同技術の普及を図る。

## 都岳連、捜索技術を確立

ルートではない」などの事象が短時間で分かった。両団体では「ドローンによる山岳遭難捜索技術開発報告書」（A4判23枚）を作成し、続いて「山岳遭難・ドローン捜索マニュアル」（A5判32枚）の制作に乗り出している。報告書とマニュアルをセットにし、1280円（消費税込み）で6月中旬には販売を始める。



に挑んできた。2015年5月から日光などの夏山や、八ヶ岳・牛首山・立山・室堂などの冬山で現地テストを実施した。遭難者発見に著しく効果があり、ドローンは操作が初心者でも容易であることなどが判明。発見できない場合でも「ここにはいない」「ここ

がある。報告書とマニュアルをセットにし、1280円（消費税込み）で6月中旬には販売を始める。